

モノを使い続けたら、資源のムダづかいを減らせるよ

みんなの住んでいる地球。大切にしたいけれど、実は、人間はモノをつくることによって、傷つけてもいるんだよ。それを防ぐにはどうしたらいいのかな？ 環境省の松本和世さんに聞いてみたよ。

**自分たちでできる3Rを
考えてみよう**

少し前までの日本は、たくさんモノをつくり、使って、捨てていました。そして、たくさんつくりすぎて、使わないで捨ててしまいました。モノは、地球にある「資源」という材料を使い、つくっています。でも、どんどん使っていると、いつか資源はなくなり、ゴミはいっぱいになってあふれてしまいます…。

それを防ぐためには、どうしたらいいのかな？ そこで、知っておきたいのが「リデュース」「リユース」「リサイクル」という言葉。それぞれの意味を説明するよ。

★リデュース（発生よく制）

ごみが出ないようにすること。スーパーでレジぶくろをもらわなければ、ごみになりません。サッカーボールなどが古くなっても捨てないで、使い続けることでごみになりません。一番大事なのは、ごみを出さないようにすること。

★リユース（再利用）

リデュースの次にやりたいのが、リユース。これは、くり返して何度も使うことをいいます。使わなくなったバットを捨てないで友達にあげると、ごみにならず、もう一度バットとして使えます。

★リサイクル（再生利用）

リユースができない場合、でき

るモノはリサイクルします。ペットボトルを、工場ではバラバラにして、材料にもどし、変身させて服などにすることがあります。

リデュース（Reduce）リユース（Reuse）リサイクル（Recycle）の最初のRをとって3R（スリーアール）と呼びます。ご飯を残しちゃったり、水を出しっぱなしにしたりすると、お父さん、お母さんから「もったいない」とおこられるよね。「もったいない」というのは、ものを大事にするという、すごく大切でいいこと。「もったいない」気持ちで3Rに取り組みしてみよう。

スリーアール どうやって3Rを 実せんしているんだろう

じゃあ実際に、どんなふうに3Rが実せんされているんだろう？ ここでは、リユースの例をしょうかい。プリンターのインクカートリッジを回収して、リユースしている会社「エコリカ」を訪ねて、新しい商品になるまでを追いかけてみたよ。

工場編

回収ボックス

家電店にあるインクカートリッジの回収ボックス。使い終わってから、このボックスに入ると、工場でまた商品として復活するんだ。「ゴミの分別はしているけれど、インクカートリッジの回収ボックスがあるのは知らなかった」と新谷千穂ちゃん（4年生）とお母さんの洋子さん。



工場に到着
使い終わったインクカートリッジが工場に到着。箱が開けられて、まずメーカーや色別に選別。それぞれ種類別に作業が進むんだ。



インクぬき・クリーニング
使い終わったといっても、まだカートリッジの中には、インクが残っています。そこで全部インクを機械で吸い取って、中を空っぽにし、キレイに清そうします。



インク注入
キッチンと使えるカートリッジかチェックしたあと、新しいインクを中にいれます。



シール
最後に、できあがった商品を包装します。このふくろは、使い終わったカートリッジを入れることができるようになっているんだよ。



検査
一つ一つ、インクもれがないかを、しっかり調べます。そのあと、商品ラベルを張り付けます。



フィルム張り付け
キャップを取り付け、フィルムを張り付けたら、インクがもれないように熱を使って密着させます。



色検査
毎日商品の中からいくつかを取り出して、実際にプリントアウトをし、色がきちんと出ているか確認しています。



店頭

お店にインクカートリッジが並びます。「包装にも気を使っているのがすごい」（千穂ちゃん）、「環境によいから、一度使ってみてですね」（洋子さん）

リデュース（発生よく制）



ゴミになる
レジ袋をもう？

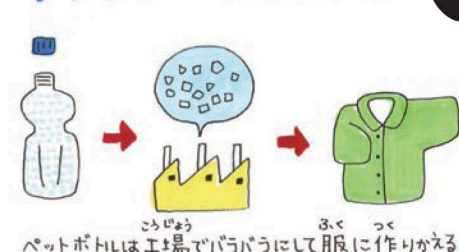
エコバッグを
もっていく！

リユース（再利用）



使わなくなった
野球のバットを
した友達にあげる

リサイクル（再生利用）



ペットボトルは工場ではバラバラにして服に作りかえる